

岩手県東日本大震災津波復興委員会 第22回総合企画専門委員会の概要について(報告)

1 開催概要

- (1) 日時 平成30年7月24日(火) 14:00~16:00
エスポワールいわて3階特別ホール
- (2) 出席者 委員6名(3名欠席)
- (3) 審議事項等
 - ① 岩手県次期総合計画の策定について
 - ・岩手県次期総合計画(素案)について
 - ・岩手県次期総合計画(中間案)に向けた復興局原案(長期ビジョン第4章「復興推進の基本方向」)について
 - ② 復興プラン(仮称)の策定について
 - ・復興プラン(仮称)の骨子案について
 - ・いわて復興レポート2018について
 - ・三陸創造プロジェクトの取組実績と取組方向(中間とりまとめ)について

2 審議概要

(1) 岩手県次期総合計画の策定について

[豊島副委員長]

- ・長期ビジョン第2章の教育分野の強みとして、東日本大震災津波の教訓を生かした「いわての復興教育」の定着が挙げられているが、郷土の誇りに気付かせる内容を含む副読本の果たしている役割は非常に大きいと感じる。今後は震災経験のない子どもが増加するため、副読本の改訂など、状況変化に対応しながら、復興教育を継続的に行っていただきたい。

[中村委員]

- ・長期ビジョン第3章の「基本目標の考え方」については、基本目標設定の趣旨が県民によく伝わるよう、記載の充実をお願いしたい。

[平山委員]

- ・復興計画が次期総合計画の第4章として入ることから、復興委員会の意見は、是非、総合計画審議会の議論にも反映させていただきたい。

[南委員]

- ・県民一人ひとりの幸福度を高める計画を立てるのであれば、今後、部局等の組織体制も県民目線に立ち、目標に応じて役割分担を行う新たな組織体制に切り替えることも検討してよいのではないか。

[齋藤委員長]

- ・復興計画の一区切りとなる8年目なので、計画全体の評価が必要と考える。良い評価だけでなく、残された課題も次に繋げていかなければならない。

(2) 復興プラン（仮称）の策定について

〔中村委員〕

- ・ いわて復興レポートなど、個別分野の進捗状況は出ているが、全体のまとめとしての評価も必要と考える。また、三陸創造プロジェクトについては、進捗状況の良いものも多いが、進捗が遅れているものについては分析が必要と考える。

〔谷藤委員〕

- ・ 復興の取組は、いずれ一般的な地域振興の取組へと転換していかなければならないが、どこまで復興として取り扱うかは難しいところなので、転換のタイミングについては、一度整理しておく必要がある。

〔豊島副委員長〕

- ・ 三陸創造プロジェクトの「さんりくエコタウン形成プロジェクト」において、自立・分散型エネルギー供給体制の整備に対する、県の目指す姿を明示することが必要と考える。

〔平山委員〕

- ・ アクションプラン等の策定にあたっては、三陸創造プロジェクトの内容を一つずつ整理して、取捨選択することも必要と考える。

〔南委員〕

- ・ これまで復興計画では沿岸部が取組の主な対象として位置付けられていたが、今後は総合計画の中に組み込まれ、県全域の取組になるともいえる。復興の過程で、内陸部と沿岸部は、インフラ整備により、時間的距離がとて近くなったため、県民一人ひとりの幸福の観点とともに、県土の一体感を育む計画にしてほしい。

〔齋藤委員長〕

- ・ 「復興の目指す姿」は、この8年間で達成したか。個々の施策の検証は行われているが、全体の総括を行い、次に繋げていくことも検討してほしい。